

1 基本的な考え方

- (1) 予測困難な時代と言われ、社会や環境が日々変化している。しかし、時代が変わろうとも、生徒の「分かりたい。できるようになりたい」という願いや思いが変わることではない。

志をもち、多様な人とつながり、柔軟に対応しながら、これからの社会を創造していく生徒の育成が求められており、学校は、安心・安全な環境を整えるとともに、生徒の特性を正しく理解し、個別最適学びと協働的な学びの一体的充実を図るとともに、特色ある教育活動を展開する中で、**一人一人の可能性を最大限に広げる教育を行っていく。**

たとえ将来の夢を、今は描けていなくても、「こうありたい」という願いや「やってみたい」という探究心に満ちた『**笑顔と希望にあふれる学校**』を目指したい。そのため、教育活動や学校生活の中で、生徒が考え、ねばり強く取り組む姿や努力、成長に光を当てたメッセージを伝え、価値付けることに軸足を置き、**挑戦し続ける心を涵養する。**

挑戦し「ねばり強くやり抜く力」は地域や社会の貢献へと働き、自分自身や周りにいる人の幸せや生きがいへ結びつくものであると考える。また、学びは学校教育で完結するものではなく、生涯続いていく。家庭・地域との連携・協働体制を構築して、人とのつながりを大切に『**地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校**』づくりを推進していく。

- (2) 私たちは「最大の環境は教職員」の考えを共有し、率先垂範・師弟同行に努めるとともに、共に行動しては「認める・ほめる」ことを大切にしてきた。その成果は昨年度の学校評価に現れている。今年度は、自己肯定感（愛されている等）や、他者の存在を前提とした自己有用感（役に立っている等）を育む教育活動を重点とし、人と関わることへの関心や意欲を高め、集団の一員としての安心感・自信・誇りをもたせたい。

いじめ、不登校、生徒指導等の諸問題に対しては、当該生徒にとって適時効果的な指導・援助となることを目指して、生徒理解と情報共有を繰り返し、当該学年を中心としたチーム支援を行いたい。また、命に関わることや相手を傷つける行為は、毅然とした態度で即時指導を行う。生活習慣の確立を図るとともに、全ての生徒にとって、学校が安心・安全な場所となることを目指すとともに、支持的風土づくりに努めていきたい。

確かな学力の育成に向けて、村上市の授業づくり研修に取り組んでおり、令和7年度は、互いに授業を見合うシステムを構築し授業改善を続けていく。学習のつまずきは不登校の要因にもなり得る。生徒指導の3機能を生かした授業づくりを大切にしていく。また、当校生徒に育みたい資質・能力として、自ら考え、判断して表現する力や、コミュニケーション能力、協調性、マナーやモラル等の社会性（当地域や社会の一員として生きるために求められる力や性質）があり、地域との連携・協働による総合的な学習の時間の充実を図る。

新しい学習指導要領策定に注視しつつ、部活動の地域展開等の喫緊の課題に適切に対応しながら、上記の考え方にに基づき、教職員・生徒・保護者・地域が手を携えて共に汗する教育活動を展開していく。

2 教育目標 めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう

<教育目標の具体>

- 「めあてをもち」→ 夢や希望をいだく。なりたい自分を決める。挑戦する心をもつ
- 「自分で考え」→ 自ら学び、自ら考える。主体的に判断。自己決定
- 「ねばり強くやり抜こう」→ 頑張りや努力。やり抜く力

3 教育目標の実現と昨年度教育課題の解決に向けた重点事項

- (1) 信頼関係を構築するとともに、自己肯定感・自己有用感を育成する教育活動を推進する。
- (2) 自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供を生かした授業づくりを行う。
- (3) 地域との連携・協働の強みを生かし、持続可能な教育活動を創造する。

4 目指す学校像 合言葉は『笑顔と希望にあふれる荒川中』

- (1) 「学ぶ、つながる、挑戦する」楽しさや喜び、心や体の成長が実感できる学校
- (2) 保護者や地域から信頼、応援され、地域とともに歩む学校
- (3) 教師が情熱と使命感をもち、やりがいを感じて教育活動を進める学校
- (4) 教育環境が整い、安全・安心に生活できる学校

5 目指す生徒像

- (1) 学習のねらいが分かり、課題にねばり強く取り組み、ねらいに対する振り返りができる生徒
- (2) 「あいさつ、返事」「がまん、時間を守る」「後始末」ができる生徒
- (3) 他を思いやり、いじめを許さない、見逃さない生徒
- (4) 健康で安全に生活し、体力の向上に努める生徒
- (5) ふるさと荒川を理解し、地域の課題を発見してともに追究する生徒

6 目指す教職員像

- (1) 心身ともに健康で、明るく生徒・同僚・来校者等と接する教職員
- (2) 生徒理解に努め、努力や成長を認め・ほめたり、きちんと叱ったりすることができる教職員
- (3) 「最大の環境は教職員」である。率先垂範、師弟同行に努める教職員
- (4) タイムマネジメントに努め、生徒と向き合う時間等を確保する教職員
- (5) 互いに支え合い、成長し、高め合っていく関係（同僚性）を大切にする教職員

7 努力事項（◎：今年度の重点）

(1) 知

◎ア 学習課題、対話、まとめ、振り返りがある授業を行う。

イ 思考、解決、表現の過程で「深い学びの技法」を取り入れた授業を、単元の中に位置づけて行う。

ウ 終学活にプランニングタイムを設定し、みとりと学習相談等で習慣化を図る。

エ 「分かる、できる」が実感できる問いや学習課題がある授業を行う。

(2) 徳

ア 生徒の絆づくりの場面（主体的・共同的な活動を通して、生徒自らが「絆」を感じ取り、心を通わせる場面）を設定する。

◎イ 学級活動・生徒会活動・学校行事で、互いの努力や成長を賞賛し合う場面を設定する。

ウ いじめに関する道德教育（道德科、いじめ見逃しゼロの取組等）は、「考え、議論する」積極的な取組を行う。

エ 心の居場所（生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所）づくりに努める。

(3) 体

ア 体育の授業や体育的行事において、体力向上に関する知識を理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

イ 体育の授業で、体力づくりの向上を図る、サーキットトレーニング・準備運動等を継続して行う。

◎ウ セルフモニタリングシートを活用し、生活習慣の改善に取り組む。

(4) 特別支援教育

ア 一人一人の教育的ニーズに応じた、足並みをそろえた適切な支援を行う。

イ 学びのユニバーサルデザイン（UDL）の理解を一層深め、取組を徹底する。

ウ 保護者・関係機関との連携を積極的に行う。

8 地域との連携

(1) 地域の関係機関と連携を図ったり教育資源を活用したりして、地域に根ざした教育を推進する。

(2) 地域スポーツクラブと連携し、部活動の地域展開を計画的に進める。

(3) 小中や中高の円滑な接続を図る小・中・高の教科、領域の指導や生徒指導の在り方等について、意見交換や引き継ぎを丁寧に行う。

(4) 学校運営協議会等で、持続可能な学校経営・地域連携について熟議を行う。

(5) 地域とともに歩む学校づくりを図る外部評価等の内容や方法を工夫する。

9 教師の基本的な姿勢 「教育は信頼関係の上に成り立つ」

(1) 個を伸ばす、可能性を広げる教育を実践する

ア 一人一人を大切にし、生徒の心の揺れや不安に即時対応する。

→あいさつや返事、表情、服装、ノートの文字・内容等を細やかに見とる。

イ 「できるようになりたい」「分かるようになりたい」という生徒の願いを大切に
する。

→補充的な学習、繰り返し学習、(記憶の呼び起こすツールと位置付けた)テスト、
追テスト等、生徒の要望を踏まえて実施する。

ウ 生徒指導の実践上の視点(生徒指導の3機能、安全・安心な風土の醸成)を生か
した教育活動を行う。

(2) 率先垂範、師弟同行。教育公務員としての誇りと自覚をもつ

ア 時と場と目的に応じた行動がとれ、生徒の行動模範となる。

→来校者や講師・指導者等への配慮。授業の開始・終了、下校等の時間を守る。

イ 適切な言葉遣い、身だしなみ、人としてのマナー等に配慮する。かかとのある靴
(緊急対応、来校者や生徒の前)

→保護者や業者の別なく誠実に接する。生徒や来校者が職員室に来たとき、相手を見
る、明るい挨拶をする。来校者との打合せ、研修会、出張、儀式的行事等にお
ける服装に気を配る。

電話の応対は、特に次のことをお願いしたい。①3回以上の場合は「お待たせい
たしました」。②しばらく待たせるときは(途中で)ことわりを入れる。③相手が
電話を切ってから静かに受話器を置く

ウ 法令を遵守し、非違行為は決して起こさない。

(3) 全教職員が協働の意識をもち、チームとなって組織的な対応をする

ア 教職員同士も明るい挨拶を行う。

イ 「報・連・相」と「確認」を徹底し、情報の共有化を図る。

→抱え込まない。悪い報告ほど早く行う。互いに声掛け合って確認する。

ウ 「スピードが誠意」チームによる迅速・適切な初期対応を心掛ける。

→生徒指導に関わることは週をまたがない。保護者への丁寧な説明を行う。

(4) 環境の整備・美化・安全管理を徹底する

ア 日々の安全点検や清掃活動を通して、安心・安全な環境を作る。

イ 環境の変化に気を配り、維持や美化に努める。

ウ 危機管理マニュアルの見直し・改善を図り、周知徹底を図る。

(5) 「集中と選択」を実践し、自らの働き方を見直す

ア 「生徒のための活動」となっているかを考え、整理・統合・削減する。

イ 「現状維持は衰退」新しいアイディアを考えて、積極的に取り組む。

ウ 時間外勤務一月 45 時間以内(又は前年度 10%減)、一年 360 時間以内を目指す。

また、年休一年 15 日以上の取得を図る。

→声を掛け合い、最終退勤者複数となるようにする。

議題精選、論点焦点化、簡潔説明等により、会議や打合せの時間を短縮する。

働き方改革に関する全職員の協議を継続して行う。